

令和7年度

霧島市議会 広報広聴常任委員会

行政視察報告書



日向市議場にて

(宮崎市、日向市、小林市)

令和8年2月2日(月)～2月3日(火)

# 1 日程

令和8年2月2日（月）～2月3日（火）

## 2 視察先及び視察内容

### (1) 宮崎県宮崎市

視察内容「議会だより編集、みやだん」

人 口 39万1,587人

面 積 643.57 km<sup>2</sup>

議員定数 40人



### (2) 宮崎県日向市

視察内容「議会だより編集、高校生との意見交換会」

人 口 5万5,956人

面 積 336.90 km<sup>2</sup>

議員定数 20人



### (3) 宮崎県小林市

視察内容「高校生議会、こぼカフェ」

人 口 4万137人

面 積 562.95 km<sup>2</sup>

議員定数 19人



## 3 視察概要

### (1) 2月2日（月）10時30分 宮崎県宮崎市

#### ア 宮崎市議会における広報広聴の体系

宮崎市議会では、紙媒体の再評価とデジタルの積極活用を組み合わせた「多層的な情報発信」を展開している。

#### (ア) 紙媒体「議会だより」の刷新

##### ・ユニバーサルデザインの導入

市広報誌に合わせ、右開きから左開きへ変更。UDフォントやイラストを活用し、視覚的なアクセシビリティを向上。

・Webとの導線設計

紙面のQRコードから「みやだん」の限定記事へ誘導。紙の誌面制約（文字数等）をデジタルで補完する「ハイブリッド運用」を確立。

・効率的な編集体制

編集委員を2班制に分け、1回約1時間の会議で迅速な意思決定を行う。

(イ) デジタルプラットフォーム「みやだん」の運用

議員有志による実証実験を経て公式事業化された、広報・広聴に特化した特設サイト。

**「みやだん」**  
デジタル技術で、開かれた議会を実現する仕組み

**双方向のコミュニケーション**

- 相談を受け直接繋がる  
同じ想いをもった住民と繋がった事例も
- 議会報告会のLIVE配信  
スマートフォンから閲覧・質問  
デジタルでの参加が可能
- アンケートによる意見収集  
市民の声を政策提言に活かせる

**すべての情報をまとめて  
広報・広聴を強化**

- プロフィールや活動の見える化  
より多くの人に、見て頂き  
信頼性や親近感を高めます
- 議会だよりや会期日程、  
議員名簿・委員会活動の掲載  
従来あるホームページの情報  
+新しい情報(動画配信も)



13

**身近に感じてもらう為、プロフィールのイラスト化**

前新会 自由民主党

宮崎市議会議員  
**鈴木 一成**  
Suzuki Isssei

出身地：宮崎市橘通東4丁目  
居住地：宮崎市松橋2丁目

3姉妹の父親として、  
小中学校のPTA役員として、  
学校教育・子育てについて  
現場目線で市と向き合っています

**Profile**

- 1977年 2月  
宮崎生まれ
- 1992年 3月  
附属中学校  
卒業
- 1995年 3月  
日向学院高校  
卒業
- 2006年 3月

趣味  
野球・テレビ  
マンガ鑑賞

家族  
妻・三姉妹

- 経歴、出身地、居住地、政党名、役職・所属、趣味、家族、得意な分野、好きな言葉、電話番号、メールアドレス、参考項目(個人ホームページのリンク先)は任意
- 議員個人の特色が出るように

27

・**双方向コミュニケーション**

LINE風のUIを用いた相談機能。分野別に議員を検索し、実名で直接メッセージ送信が可能。

・**一般質問の「見える化」**

60分の動画を凝縮した「30秒動画」を配信。質問分野をヒートマップ化し、議会の関心事と市民のニーズを可視化。

・**AI活用と音声配信**

AI「みやだん議長」によるダイジェスト読み上げや、「みやだんラジオ」を通じた常任委員会議論の解説。



(ウ) **市民参画と主権者教育の拡充**

・**アンバサダー制度**

SNS発信を行う市民アンバサダー（無償）を公募。若年層から高齢層まで幅広く委嘱し、第三者視点での議会発信を促進。

・「議会と語る会」の再定義

報告時間を削り、意見交換（公聴）を80分に拡大。オンライン併用により、現地参加130名に対し総視聴者数約1,000名に達する成果を上げている。

・**子ども議会**

アニメ動画を活用した事前学習により、学校側の負担を軽減しつつ主権者教育を実施。



イ **管理体制、合意形成**

・**管理体制**

公式HP（記録・保管）と「みやだん」

（広報・交流）の役割を明確に分離。事務局の政策調査室（メイン担当1名、サブ1名）が運用を支え、動画編集等は外部委託を活用。

- ・ **合意形成**

導入に際しては「全会派参加のプロジェクトチーム（PT）」を組織し、デジタルに消極的な議員に対しても、事務局によるタブレット操作支援や撮影代行により負担を最小化することで合意を形成。

- ・ **コスト構造**

「みやだん」のランニングコストは月額 22 万円（税込）。議員任期に合わせた複数年契約により、継続的な予算確保と運用の安定化を図っている。

## ウ 霧島市議会への活用の可能性

- ・ **段階的なDX移行**

宮崎市のように、まずは「紙面リニューアル」と「デジタルへの導線作り」をセットで進めることが現実的かつ効果的である。

- ・ **事務局・議員の負担軽減**

全ての動画や記事を自前で作るのではなく、外部委託やAIを活用し、議員は「語る（素材提供）」、事務局は「確認」に注力できる仕組みを検討すべきである。

- ・ **「相談の心理的障壁」の払拭**

実名登録制や漫画を用いた事例紹介など、双方向ツールにおけるマナー維持とアクセスのしやすさを両立させる工夫を導入したい。

## (2) 2月2日（月）14時45分 宮崎県日向市

### ア 議会だより「陽だまり」の編集・運用体制

日向市では、議員による「内容の担保」とプロによる「視覚的訴求」を明確に分業している。

#### (ア) プロポーザル方式による外部委託

- ・ **委託内容**

従来の市内指名型から「公募型プロポーザル」へ移行。デザイン会社が紙面構成・図解・ピクトグラム作成を担い、広報委員会は記事執筆と校正に特化。

- ・ **編集哲学**

「文字数を抑え、最大情報を届ける」。専門用語を排除し、キャラクター（ひだまりちゃん）や余白を活用した、手に取りやすいデザインを追求。

- ・ **費用・発行**

年4回発行、1号あたり39万6千円（委託料）。配布は主に自治会経由（約17,700部）で行っている。

## (イ) 議員全員参加型の編集体制

### ・広報特別委員会

定数 20 名のうち半数（11 名）を委員に充て、2 年ごとに交代。一部のベテランに偏らず、全議員が広報マインドを持つ体制を構築。

### ・原稿管理

一般質問の原稿（約 500 字）は、担当議員が校正。文章が成立していない場合は修正を促すなど、議会の品位と個性の両立を図る。

### ・会議の効率化

以前は 7～8 回開催していた編集会議を「3 回」に集約。事務局がハブとなり、デジタルツールを活用した連絡調整を行うことで、議員の拘束時間を大幅に短縮（1 回 30 分～1 時間）。

## イ 高校生との意見交換会の運営と成果

議会基本条例に基づき、主権者教育と市民意見の集約を目的として令和 3 年度から実施。

延岡青雲 高校生 市議会と熱い議論 日向工業

日向市議会と日向工業高校生が、11月10日（水）に開催した意見交換会。

日向市議会（議長と議員 20 人）と市内高校生との意見交換会が、同日市議会場で開かれた。熱い議論が交わられた。

2021年度から開いており、5回目の今回は6、7日に実施。初日午前には日向工業高校生10人が参加し、懇話に協議した。ある班はスマートフォンを使いながら自転車に乗る「ながら運転」などの交通違反をした際に反則金納付を通告される交通反則切符（青切符）制度が来春始まることについて話し合った。

生徒は「交通ルールを学ぶ場が必要。通学路の路側帯拡幅や消えている白線を塗り替えて」などと訴え、議員の助言を踏まえ、生徒代表が「学校を通じて県警に講習の要望を出したい。白線塗り替えなどは国道や県道、市道で管理者が異なるため、区長や議員にも要望したい」とまとめた。

電気科2年の糸平豊和さん（17）は「議員と直接話す機会は多くないので、今後も続けてほしい」と話した。意見交換会は富島、日向高も対象。

（佐藤暢彦）

### 巨大地震対策注力を

延岡市議会と同日、延岡星雲高（柳井健一校長、405 人）の2年生との意見交換会は10日、同校であった。高校生は政治、議会に関心をもち、意見交換会をもち、若い世代の意見をまちづくりの参考にしようとして、市内高校、九州医療科大を対象に毎年実施している。本年度の議題は「南海トラフ巨大地震対策」。市議17人、同日は同大学の学生約20人、生徒約100人が八つのグループに分かれ、個人や社会を

（諫山尚人）

### 交通ルール学びたい

生徒は「交通ルールを学ぶ場が必要。通学路の路側帯拡幅や消えている白線を塗り替えて」などと訴え、議員の助言を踏まえ、生徒代表が「学校を通じて県警に講習の要望を出したい。白線塗り替えなどは国道や県道、市道で管理者が異なるため、区長や議員にも要望したい」とまとめた。

電気科2年の糸平豊和さん（17）は「議員と直接話す機会は多くないので、今後も続けてほしい」と話した。意見交換会は富島、日向高も対象。

（佐藤暢彦）

延岡市議会と同日市議と高校生との意見交換会

（令和7年11月12日 宮崎日日新聞記事）

## (ア) 運営プロセスと役割分担

### ・対象

市内県立高校3校および支援学校高等部

### ・準備

6月から動き出し、学校側とテーマ（探究学習との連動）を調整。議員が進行役となり、議場で班別のフランクな対話を実施。

### ・フィードバック

出された意見は事務局が集計・報告書化し、年度末に議長から市長へ直接手交。一般質問や施策提言への反映を前提とした「出口」のある仕組みとしている。

## (イ) 特筆すべき成果

### ・現場感覚の把握

定時制高校での「不登校問題」など、当事者性の高い意見を直接聴取することで、行政への訴求力が向上。

### ・イメージの刷新

「堅苦しい議会」のイメージを払拭し、議員側も若者の感性に触れることで課題発見力が研ぎ澄まされる相乗効果を確認。

## ウ 霧島市議会への活用の可能性

### ・「デザインのプロ委託」への転換

現行の委員会主導のデザイン作成は限界に来ており、可読性向上と委員の負担軽減のため、日向市のような公募型プロポーザルによる委託を検討すべきではないか。

### ・編集会議の質的改善

資料配布やレイアウト案の共有を事前にデジタルで行い、会議は「方針決定」と「最終確認」に絞ることで効率化を図る。

### ・意見交換会の提言化

高校生等との対話を「やりっぱなし」にせず、市長への手交や一般質問への活用など、具体的な政治プロセスに組み込む仕組みを構築したい。

日向市の事例は、特に「プロの力を借りる勇気」と「全議員を広報に巻き込む組織作り」において、本市の次期リニューアルの良いモデルになると考えられる。

### (3) 2月3日(火) 14時45分 宮崎県小林市

#### ア 高校生議会の取り組み(主権者教育の高度化)

従来の意見交換会を発展させ、高校生が「議員」として登壇する本会議形式を採用している。

##### (ア) 運営体制と準備プロセス

###### ・参加体制

市内3高校から約18名が参加。チーム制(1チーム2~4人)を導入し、急な欠席にも対応可能な体制を構築。

###### ・議員の役割

高校生1人に議員1人が伴走し、探究学習を支援。議員は「答弁者」も務め、執行部ではない立場から、共感の表明や現状の課題、議会での調査状況を回答する。

###### ・事務局連携

答弁の事実確認(数値や正式名称)は、事務局を通じて執行部へ依頼。再質問への対応も含め、周到的な事前準備を行っている。

##### (イ) 成果と波及効果

###### ・win-winの関係

生徒は推薦入試等の課外活動実績として活用でき、学校側は探究学習の場として評価。議会側は若い感性に触れることで、一般質問への反映や議員自身のスキル向上に繋がっている。

## イ 市民対話の深化「こぼカフェ」

「議会報告会」から、対話重視の「意見交換会」へとシフトした事例。

### (ア) ワールドカフェ方式の採用

#### ・手法

少人数グループに分かれ、お菓子や飲み物を用意したリラックスした環境（カフェ形式）で対話。模造紙や付箋を用いて意見を可視化する。

#### ・ターゲットの明確化

令和5年度は「子育て世代」に特化。PTA等を通じて募集し、議場ツアーを併用するなど、参加のハードルを下げる工夫を実施。

### (イ) 意見の政策反映フロー

出された意見を広報広聴委員会で集約し、内容に応じて「A、B、C」に分類。

#### ・A（重要課題）

政策討論会や検討討議の資料として活用。

#### ・B、C（委員会審議）

常任委員会の審査における一意見として活用し、実施報告書を市民へ公開。



## ウ 議会だより「はなみずき」と読者モニター制度

### ・自前編集の追求

印刷のみ業者委託し、データ作成は議員と事務局で行う。動画制作に長けた読者モニターと協力し、ユーチューブでの動画発信も強化。

### ・読者モニター制度

10名のモニター（中学生以上、高校生含む）を委嘱。年1回の意見交換会やアンケートを通じて、市民目線での紙面改善を継続。

### ・双方向性

返信はがきによる意見募集を継続し、住所氏名が明記されたものには処理結果を通知。

## エ 霧島市議会への活用の可能性

### ・「高校生議会」の段階的導入

従来の意見交換会から一歩踏み込み、議場を活用した「質問・答弁体験」をプログラムに組み込むことで、若者の政治関心をより強力に喚起できる。

### ・ターゲットを絞った意見交換会

全方位の市民を対象とするのではなく、「子育て世代」「商工団体」などターゲットを絞り、カフェ形式で本音を引き出す手法を検討。

### ・読者モニターによる外部評価

編集会議が「内輪の視点」にならないよう、公募モニターによる客観的な評価システムを導入し、可読性と満足度の向上を図りたい。

## (4) 視察の総括

今回の視察先を整理すると、以下の方向性が示唆される。

### ・宮崎市

デジタルプラットフォーム「みやだん」による「双方向のデジタル広聴」

### ・日向市

プロのデザイナーとの分業による「視認性の高い広報紙」

### ・小林市

高校生議会やカフェ形式による「深く、顔の見える対話」

### 3 所管

委員長 竹下 智行

---

#### 【宮崎市】

宮崎市議会では、市制 100 周年や議員の新体制を機に、紙媒体とデジタルを融合させた「多層的な情報発信」を展開しています。特筆すべきは、広報・交流特設サイト「みやだん」の運用です。LINE と同じような感覚で操作できる画面を使って、議員への直接相談できる機能や、AI「みやだん議長」による音声配信、一般質問を 30 秒に凝縮した動画など、市民が議会を身近に感じるための DX 施策が徹底されています。一方で「議会だより」も軽視せず、UDフォントの採用や左開きへの変更、QRコードによる詳細記事への誘導など、紙とWebのハイブリッド運用を確立しています。導入に際しては「全会派参加のプロジェクトチーム」を組織し、デジタルに不慣れな議員へのサポート体制を整えることで合意形成を図っており、霧島市においても「段階的なDX移行」と「事務局・議員の負担軽減」を両立させる仕組み作りが不可欠であると感じました。

#### 【日向市】

日向市議会は、デザイン会社との分業による「議会だより」の劇的な刷新と、実効性のある主権者教育に注力しています。広報誌「陽だまり」の編集では、公募型プロポーザルで選定したプロのデザイナーが誌面構成を担い、議員は記事の執筆と校正に特化しています。これにより、以前は7～8回開催していた編集会議を3回（1回1時間以内）に短縮し、視覚的訴求力と業務効率を同時に向上させています。また、高校生との意見交換会では、単なる交流に留めず、出された意見を報告書にまとめ、議長から市長へ直接手交して一般質問や施策提言へ反映させる「出口のある仕組み」を構築しています。本市においても、可読性向上のための「プロの力の活用」と、対話を政治プロセスに組み込む具体的な仕組み作りを検討すべきであると強く認識しました。

#### 【小林市】

小林市議会では、「高校生議会」を通じた高度な主権者教育と、ワールドカフェ方式による市民との深い対話が特徴です。高校生議会では、議員が高校生に伴走して探究学習を支援し、本会議形式で議員自らが答弁者となることで、若者の政治関心を高めると同時に、議員自身のスキル向上にも繋げています。意見交換会「こぼカフェ」では、子育て世代などターゲットを絞り、お菓子を囲んだりリラックスした雰囲気の中で本音を引き出す工夫がなされています。また、読者モニター制度を導入し、中高生を含む市民から客観的な評価を得ることで、内輪の視点に陥らない紙面改善を継続しています。ター

ゲットを明確にした「顔の見える対話」と、外部評価を取り入れた広報紙の質的向上は、本市が目指す「開かれた議会」の実現に向けた有効な指針になると考えます。

### 【視察の総括】

今回の3市視察を通じて、宮崎市の「デジタルによる双方向性」、日向市の「プロと分業による視認性」、小林市の「対話による主権者教育」という、三者三様の強みを確認できました。これらを本市の実情に合わせて組み合わせることで、次年度の議会だよりリニューアルやDX推進における強力なモデルケースになると確信しています。

## 副委員長 川窪 幸治

---

### 【宮崎市】

宮崎市議会では、若年層を含む幅広い市民に「読まれる」「伝わる」議会広報を目指し、令和6年7月号から議会だよりを全面的にリニューアルしている。従来の文字中心の報告型から、市民目線を重視した構成やデザインへと転換し、議会活動の内容を分かりやすく可視化している点が特徴である。

特に、AIやデジタル技術を活用した情報発信について積極的に調査・研究が進められており、議会だよりと動画配信、議会中継や解説動画等を連動させ、QRコードを活用した情報提供が行われていた。紙面では要点を簡潔に示し、詳細な内容はWEBや動画で補完するなど、媒体の特性を活かした役割分担が図られている。また、市民アンケート等を通じて広報効果の検証と改善を継続的に行う方針も示されていた。

本研修で得た学びを踏まえ、本市においても議会だよりの在り方やデジタルを活用した情報発信について、委員会においてしっかりと協議を重ね、実現に向けて取り組んでいきたい。

### 【日向市】

日向市議会では、平成29年6月に議会だよりのリニューアルを実施し、若年層を含む幅広い世代に議会を身近に感じてもらうための紙面づくりに取り組んできた。

その特徴的な取組として、高校生との意見交換を行い、実際の読者である若者の率直な意見を議会だよりの編集や広報活動に反映させている。こうした取組は、市議会が市民、特に若者の声を尊重し、共に考える姿勢を示すものであり、議会への理解や関心を高める効果があると感じた。

本研修で得た学びを踏まえ、本市においても、高校生をはじめとする若年層との意見交換の在り方について協議を行い、実施に向けた検討を進めていきたい。

## 【小林市】

小林市議会では、若年層をはじめとする市民に議会をより身近に感じてもらうため、高校生議会や「こばカフェ」といった対話型の取組を積極的に実施している。これらの取組は、単なるイベントにとどまらず、若者の声を政策形成や議会広報に反映させる仕組みとして位置づけられており、議会だよりにおいても分かりやすく紹介されている点の特徴である。

研修を通じて、議員と議会事務局が密に連携しながら取組を進めている点が強く印象に残った。特に、議員が自ら率先して企画・運営・対話に関わり、現場に出向いて市民や若者の声を直接聴く姿勢は、議会への信頼や関心の向上につながっていると感じた。

本研修で得た学びを踏まえ、本市においても同様の取組について調査・研究を進め、実施に向けた検討を行っていきたい。

## 委員 稲留 誠也

---

### 【宮崎市】

まず宮崎市議会全体の取組として、議会のDX化を目的とした「みやだん」が特徴的であるが、広報紙と連動することでより効果を高め、市民への多角的な情報発信がされており、一定の効果があるように伺えた。みやだんそのものが先進事例であり、コスト面での評価など課題はあるが、紙とデジタルの融合という視点において霧島市にも活かせるポイントであると感じる。

また、広報紙自体の「読まれる」ための細かい工夫が多く、表紙にはキャッチーなイラストの使用や、語る会の宣伝（チラシ形式）などにより、市民が一目見て手に取りやすい印象を持った。

その他、一般質問の商業的役割を担う30秒動画の公開や、議会の広報を市民に募るアンバサダー制度など、市民と議会の距離を近付けるための工夫は非常に参考になるものであった。

### 【日向市】

議会広報紙を「陽だまり」と題して、オリジナルキャラクターも使いながら市民からの認知度の向上を目指す取組は新しい視点であった。

過去の経緯を踏まえ、デザインやレイアウトに関して外部業者の視点を多く取り入れ、現在のより読みやすい形式に辿り着いている。業者は2年ごとのプロポーザル方式により選定されており、霧島市においても選定方式の見直しを検討する余地があることが分かった。

高校生との意見交換会は主権者教育の一環として議会全体で取り組んでおり、高校生との有意義な意見交換ができています。年間スケジュールを細かく策定しており、各フェーズにおけるタスクを明確化しているため、議員の改選や事務局の異動があっても問題なく実施できているようであり、進め方として参考になる取組であった。

### 【小林市】

高校生議会の取組は、答弁調整や再質問に至るまで、本格的な議会に限りなく近い形式となっており、主権者教育と意見交換という両方の側面からもとても良い取組であった。また、参加する高校生へ証明書を渡すことにより、課外活動として評定に加わる可能性があるという視点は新しく、非常に参考になるものであった。

市民との意見交換会として実施している「こぼカフェ」は議会ツアーから始まり、その後の意見交換（ワールドカフェ方式）実施までの流れが、開かれた議会として市民に分かりやすい形式となっており、市民アンケートの結果から見ても、好評である事が分かった。

### 【全体を通して】

今回の3市の事例を見た上で、本市においても、まず議会広報として目線が市民と合っているかを再度問う必要があると感じた。一方的な分かりにくい情報の押し付けになっていないか、市民に求められていることを把握しているか。その視点を常に意識することから立ち返り、本市の広報広聴に生かしたい。

また、議会広報紙の業者選定方法や委託内容、高校生議会の開催（復活）、語る会の実施方法など、本市においても具体的に検討すべき課題を認識する機会となり、今後速やかに委員会において議論した上で、本市の取組を進めていくべきであると感じた。

## 委員 立和田 広司

---

### 【宮崎市】

宮崎市の「議会だより」は、令和6年6月定例会号よりリニューアル。市の広報誌と同じ左開きに変更。イラストやアイコンを活用されており読みやすさ、自治会配布の効率性を重視されておりました。

IT技術を駆使し、あらゆる世代に興味を持ってもらえるよう、AIやDXを用いた取組に、市民との距離を縮めることを目的とされており、新しい発想を感じました。

市議会を、より身近に感じてもらう架け橋になってもらうために発足した、宮崎市議会アンバサダーの皆様がSNSを活用。市議会と連携し情報発信の活動をしておりました。

## 【日向市】

日向市の「市議会だより」は、11名にて取り組んでいる。平等に広報誌を作成するため、議員を2グループに分けて構成し、2年間毎に担当。現在は後半のグループが広報特別委員会として議会だよりの編集に携わっている。

表紙の写真には、カメラが得意な議員が担当しており、拝見した12月号には表情豊かで生き生きとした青年たちの希望が溢れている。

2021年度から高校生との意見交換会を議会議事堂を会場に開催。昨年は市内3校の生徒を招き、魅力的なまちづくりを目指し、熱い議論が交わされたとの事。素晴らしい取組だと感じました。

## 【小林市】

令和6年度に、小林市内の高校生19名が出席し高校生議会を議場にて開催されておりました。高校生議会を開催するにあたり、令和元年度から毎年「高校生との意見交換会」を開催し、きっかけや目的を明確にされ準備を重ねておりました。

こばカフェは、テーブルを囲い飲み物やお菓子を準備し参加者が気軽に話ができる、ワールドカフェ方式を取り入れリラックスして意見交換ができる雰囲気づくりをされておりました。議員も普段着で参加するなど工夫し、親しみやすい場を設けられておりました。

## 委員 香山 二郎

---

### 【宮崎市】

市議会の広報の手段として、従来のHPや市議会だよりとは別に議会DX「みやだん」を運用していた点が特筆すべき点であった。

双方向コミュニケーション➡市民と議員の双方向を直接つなぐツールなど

議会情報のわかりやすさ追求➡議員本人による一般質問の30秒動画

議会だよりスマホ版

など、市民が議会に触れるきっかけづくりに特化した構成になっていてわかりやすい。閲覧数の増加などの数値に効果が表れており、先進的で活発な広報活動が行われていると感じる。

過去には広報がうまく進まない時期もあったとのことであるが、副委員長長の「やらない後悔よりもやって後悔する方がいい」のお言葉が印象的であった。

従来の広報に「みやだん」を追加しているため、両者を平行して運用することは管理上の苦勞もあるとのことであった。

議会だよりは業者を上手く利用し、委員会（編集作業など）を短時間に抑えておられ参考にしたい。

### 【日向市】

市議会だより「陽だまり」の編集に関して、事務作業は全て議会事務局が担当、議員は内容確認が主な仕事であり委員会も短時間におさえていた。過去には、特定の担当職員に業務が集中していた時期もあったが、現在は全体デザイン含め業者に依頼していた。

広報広聴委員は必ず全員が2年毎に担当することになっており、広報活動に積極的な議会であると感じる。

### 【小林市】

高校生議会は事前準備が入念されており、本番では再質問も認められる等、かなり本格的。高校生、学校、議員の三者とも満足が得られる結果となっており大変有意義であると感じた。大学の推薦入試における加点になるとのことで驚きであるが、目的が変わるように感じられ高校生の参加動機に関しては疑問が残る。

議会だよりの作成方法、高校生議会の運用等に関して説明中に「仕様書」が何度か出ており作業の標準化が進められていると感じた。

全体を通して、いずれの自治体も広報活動に関して積極的で、過去からの問題を抱えながら、それぞれにあった方法を考え、苦労しながら少しずつ改善されていることを感じた。

我々霧島市議会にそれらの活動をそのまま当てはめることはできないが、参考にしながら、今後我々が何をすべきか自ら考え方針を導けるよう努めたい。

## 委員 野村 和人

---

### 【宮崎市】

市広報紙は令和5年度から左開きに変更されており、その流れも踏まえて、令和6年度からは読みやすさと自治会配布の効率性を重視し「横書き・左開き」が採用されたとのことでした。表紙には明確なメッセージが込められており、手に取りたくなる工夫が感じられます。市民やアンバサダーの方々が表紙に登場することで、「ここを見てほしい」というポイントが一目で伝わる紙面になっていると感じました。ユニバーサルデザインの観点から見ても、横書きの方が多くの人にとって読みやすいのではないかと思います。霧島市議会だよりでも、今後のリニューアルに向けて、この点を含めた議論を深めていくべきだと感じました。

また、「みやだん」採用に至る経緯を伺う中で、議員活動の見える化と、市民と議会との距離を縮めることを目的として、議員一人ひとりの個性が伝わるよう多様な手法に挑戦されてきたことが分かりました。霧島市議会としても、まずは試行的にでも、できるところから会派や個人単位で取り組んでみたいと感じました。

さらに、議案審査の内容を端的に伝える「みやだんラジオ」は、コミュニティFMを持つ霧島市においても非常に有効で、ぜひ導入を検討すべき取組だと強く感じました。

## 【日向市】

議会だより制作の発注については、平成29年度からプロポーザル方式で委託業者を選定しているとのことでした。この背景には、デザインやレイアウトには専門的な知識やノウハウが必要であり、外部の専門家の力を借りる必要性を強く感じたことがあると伺いました。日向市議会の議会だよりも模索しながら広報活動を行っているとのことでしたが、霧島市でも広報広聴活動をさらに充実させるためには、トレンドに合ったデザインの部分は専門家に任せつつ、議員は本来の役割にしっかり力を注ぐことが大切ではないかと考えます。

高校生との意見交換会については、「これからのまちをつくる若者たちの意見を聞くこと」は、そのまま「これからのまちをつくること」だと感じています。主権者教育の面から見ても、多くの市民の皆さまと共に、これからの霧島市をつくっていくうえで非常に重要な取組だと考えます。これまでも、議会だよりの特集記事として国分中央高校の皆さんと一緒に企画を行ってきましたが、もう一步踏み込んで若者との対話の機会を増やしていくことこそが、これからの霧島市をつくることだと痛感しています。できることから一つひとつ取り組み、着実に前進していきたいと思えます。

## 【小林市】

高校生議会が始まった背景には、令和元年から続いている「高校生との意見交換会」があると伺いました。令和6年度には、委員会で主権者教育を目的とした提案がなされ、高校生議会として新たにスタートしました。同じ年度内に第1回目が開催されたとのことで、予算は少額でありながら、強い思いを持って行動する議員や関係者がいれば、スピード感を持って実現できることの証明だと感じました。具体的な運営方法についても、綿密な計画とリハーサルにより、有効な高校生議会となっていました。PDCAサイクルも意識されており、私たちが視察した当日の午前には第2回目が開催されていました。お忙しい中で視察を受け入れていただいたことに、心より感謝申し上げます。第2回の高校生議会では再質問も認められており、素晴らしいステップアップがなされていると感じました。

こばカフェでは、ワールドカフェ方式を基本とし、話しやすい雰囲気づくりにさまざまな工夫が凝らされていました。さらに、議場ツアーも実施されていました。全体の開催時間は2時間で、このうち30分が議場ツアーに関する時間でした。議員の役割説明が約10分、その後、委員会ごとの意見交換会が20分ずつ行われていました。意見交換を20分という限られた時間で区切る難しさも感じましたが、議場ツアーがあることで、市議会をより身近に感じる貴重な機会になっていると感じました。先方から伺った反省点としても、時間配分には大いに悩んでいるとのことでしたが、対象者に応じて柔軟にアレンジしていくことが重要だと改めて感じました。

## 委員 藤田 直仁

---

### 【宮崎市】

宮崎市の市議会だよりは、市民の議会活動への興味・関心を高めるために、民間業者のノウハウを活かした「読みやすい紙面」の制作に積極的に取り組みながら、SNSやWeb（DXみやだん等）と連動した多角的な情報発信を行っている。

また、編集作業は10名の委員が2班に分かれ、定例会ごとに交互で担当しており、約1時間程度の編集会議（2回）を含め、議員だよりを作成するなど、明確な役割分担と作業の効率化を図っている。

### 【日向市】

日向市の市議会だより「陽だまり」は、議員分担と外部デザイン会社委託を行い、編集作業の効率化を図っている。また、文字数を減らし伝えたい情報の簡潔化や専門用語の排除、視覚的工夫でわかりやすさを追求している。さらに令和6年3月号からオリジナルの議会キャラクターを導入し、市民との双方向の関係構築を模索している。

高校生との意見交換会は、市内にある県立高校3校に支援学校1校の生徒たちを対象に新たな市民の意思を確認する場として令和3年度から開催している。そこでの意見等は、議員が議事録や報告書を作成し、市長に提出する流れとなっている。また、高校生の生の意見を聴くことで、新たな課題発見につなげるだけでなく、主権者教育の一翼を担う重要な取組であると位置づけている。

### 【小林市】

小林市の高校生議会は、議会の仕組みを学び、体験してもらうことで、高校生の政治に対する興味、関心、政治への参加意識の醸成につなげるとともに、高校生との交流による議員の新たな政策発見や、主権者教育推進の機運の向上につなげることを目的として、令和6年度から取り組んでいる。

特筆すべき点は、小林市議会の一般質問の形式に則って、高校生が議長や議員となり、自身で考えた質問を行い、それに市議会議員が答弁する形をとって、市議会主体で運営されている。さらに2年目である令和7年度は、個人からグループによる質疑に変え、再質問のやり取りができるように内容に充実を図っている。

また、「こぼカフェ」については、従来の対面形式での「市民との意見交換会」で生じた課題解消策としてワールドカフェ方式を取り入れた。ここでの意見はその内容により、所管する常任委員会に振り分け対応することとしている。

今回の行政視察を通して、今後の編集作業については、民間のノウハウも最大限に活用するなど担当議員や事務局担当者、編集業者のそれぞれの役割を再考し、作業のスリム化や効率化を図ることで、議員でしかできない部分に注力できるように大きな見直しを急務であるとする。そのうえで、「議員だより」以外の広報活動や広聴の一つである「議員と語るかい」の内容の充実など、更なる活動の幅と充実を図っていきたい。

以上、今回の行政視察において、快く受入れて頂いた各行政関係者に感謝申し上げ、行政視察の報告といたします。併せて、今後の市政発展に活かしていきたいと思いません。

以上、広報広聴常任委員会の行政視察報告とします。

霧島市議会議長 徳田 修和 殿

広報広聴常任委員会

委員長	竹下 智行
副委員長	川窪 幸治
委員	稲留 誠也
委員	立和田広司
委員	香山 二郎
委員	野村 和人
委員	藤田 直仁